

第100回 埋蔵文化財セミナー・長岡京跡発掘調査50年記念講演会資料

# 日本都城制の源流を探る

## —前期難波宮と中国都城制—

中尾 芳 治

日時：平成16年8月22日（日）

於：向日市民会館

主 催 京 都 府 教 育 委 員 会  
財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

第100回 埋蔵文化セミナー (長岡京跡発掘調査50年記念講演会)

「日本都城制の源流を探る—前期難波宮と中国都城制—」

中尾芳治

はじめに

I. 日本都城制の源流を巡って

- 関野 貞 『平城京及大内裏考』 1907年 平城京=唐長安城に源流
- 岸 俊男 『藤原京—国道165号線バイパスに伴う宮域調査—』 1969年  
「日本の宮都と中国の都城」『日本古代文化の探求 都城』社会思想社  
唐長安城源流説に対し南北朝都城源流説を提起 1976年

II. 中国研究者との討論

- 1981年夏 「中国都城制研究学術友好訪中団」(団長 岸俊男)の訪中・討論  
岸 俊男 南北朝都城(北魏洛陽城)源流説  
王 仲殊 唐長安城+洛陽城源流説  
(寺島孝一「日本古代宮都の源流」『論争・学説日本の考古学』6歴史時代 雄山閣  
1987年)

III. 前期難波宮=難波長柄豊碕宮=日本宮室の原型

- 前期難波宮と中国都城制との関係  
中尾芳治「前期難波宮と唐長安城の宮・皇城」『難波宮の研究』吉川弘文館 1985年

IV. 前期難波宮内裏南門はなぜかくも巨大なのか?

- 佐竹 昭「藤原宮の朝庭と赦宥儀礼」『古代王権と御社』雄山閣出版 1998年  
(初出は1988年)

1. 藤原宮における赦宥儀礼

『続日本紀』大宝元年(701)11月乙酉条によると、藤原宮の大極殿門外の朝庭で行われていたそれまでの赦宥儀礼を廃止して、以後は罪人を所管の官司(刑部省囚獄司)で放免するよう改定した。すなわち、藤原宮では当初(794~701年)は、大極殿門前で赦宥儀礼を行っていた。

2. 唐朝の赦宥儀礼

太極宮承天門外の朝堂の南に囚人が集められ、威儀を正すなかを皇帝が承天門に出御して赦免を宣した。

3. 藤原宮の大宝以前の赦宥儀礼は、唐の赦宥儀礼の影響下に成立。

藤原宮の大極殿門は、唐の三朝制(外朝・中朝・内朝)の外朝に当たる承天門の機能の一部を受容したもの。

4. 前期難波宮内裏南門=藤原宮大極門=唐承天門

内裏南門の巨大性と正殿的な性格は、唐三朝制の外朝正殿としての承天門の性格を受容したものではないか。

V. 前期難波宮と唐長安城の宮・皇城

前期難波宮(難波長柄豊碕宮)と唐長安城の宮・皇城を対比した時、前者の造営に際して後者の三朝制をはじめとする都城制の理念や構造を日本の国情に合わせて受容したのではないか。

VI. 孝徳朝における唐制の受容

1. 隋・唐の中国統一と東アジアの国際情勢

隋・唐の中国統一と対高句麗戦争を契機として政治的・軍事的に緊張の高まった東アジアの国際情勢に対処するために、朝鮮三国と日本ではいずれも権力の集中をめざして政治改革が行われた。

2. 唐制模倣の官職・儀礼

尚刑部書・衛部・将作大匠・祠官頭  
賀正の礼・射礼・「難波朝廷の立礼」

3. 孝徳朝における唐制への強い志向をみれば、難波長柄豊碕宮の造営に際して唐の都城制が参考にされてことは想像に難くない。

VII. 前期難波宮(難波長柄豊碕宮)の規模・構造は、大化前代の飛鳥では分散していた外廷の機能を難波遷都を機に内廷に集約したこと、中国的な立礼や賀正の礼の採用に示されるように、中国の儒教的な礼教主義に基づいて天皇を頂点に臣下を秩序付けるさまざまな礼法が定められるとともに、それを具体的に演出して「東夷の小帝国」としての威信を内外に誇示する舞台装置として構想されたことを示している。

VIII. 遣隋・唐使、留学生・僧の果たした役割

表6 留学生・学問僧の帰国

帰国年	帰国した留学生・学問僧<渡海年・留学年数>
623 推古31年 7月	(学生)倭漢直福因<推古16年入隋、16年間留学>、 (学問僧)新漢人広濟<推古16年入隋、16年間留学>・(同)惠光<入隋年不明>、薬師惠日<入隋年不明>
632 舒明4年 8月	(学問僧)新漢人曇<舒明2年入唐、24年間留学>・(同)靈雲<入唐年不明>
639 同 11年 9月	(学問僧)志賀漢人惠隨<推古16年入隋、31年間留学>・ (同)惠雲<渡海年不明>
640 同 12年 10月	(学生)高向漢人玄理<推古16年入隋、33年間留学>・ (同)南淵漢人請安<推古16年入隋、33年間留学>

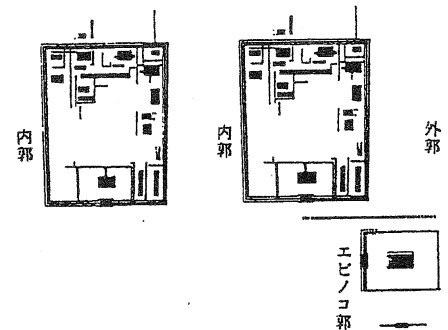
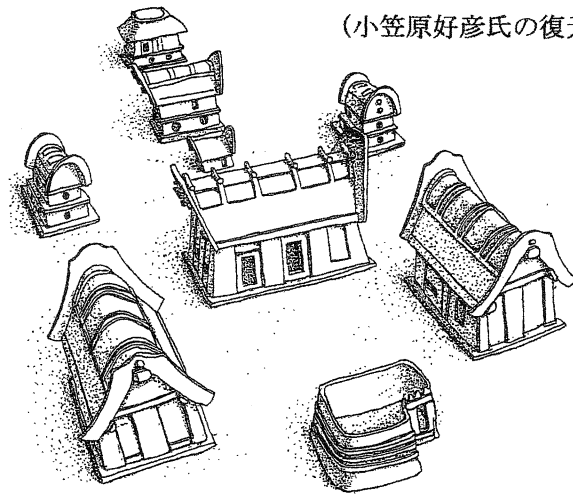
IX. 藤原京の復元と『周礼』の都城制

小澤 毅「古代都市“藤原京”の成立」『日本古代宮都構造の研究』青木書店 2003年  
(初出は1997年)

豊田裕章「前期難波宮と“周制”三朝制について」『ヒストリア』173号 2001年

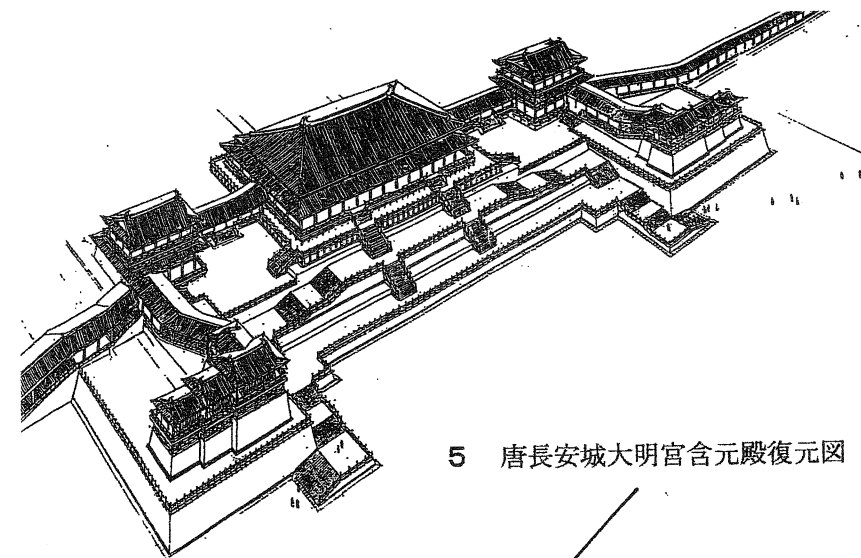
2 群馬県赤堀茶白山古墳出土家形埴輪

(小笠原好彦氏の復元による)

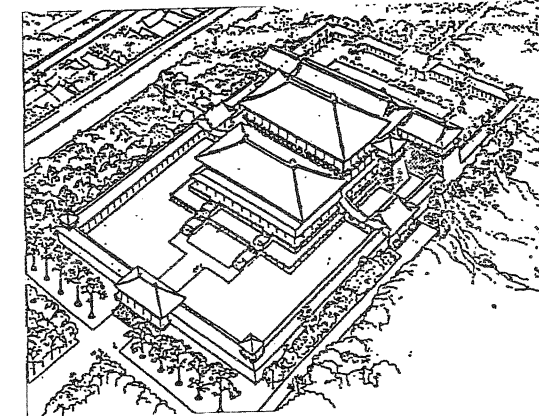


飛鳥京跡上層遺構A  
(後飛鳥岡本宮?)  
(7世紀後半)

飛鳥京跡上層遺構B  
(飛鳥浄御原宮?)  
(7世紀後半)

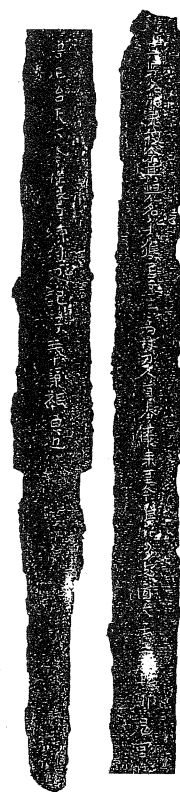


5 唐長安城大明宮含元殿復元図

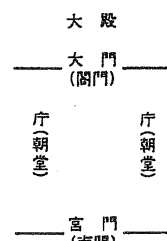


6 大明宮麟德殿復元図

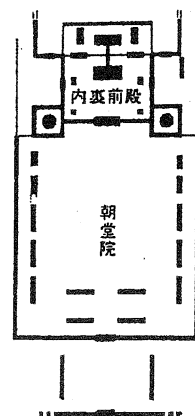
3 埼玉県稲荷山古墳出土鉄剣銘



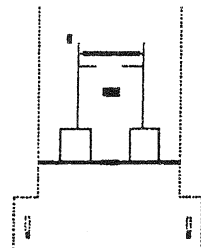
獲加多支箇大王寺在斯鬼宮時吾尤治天下



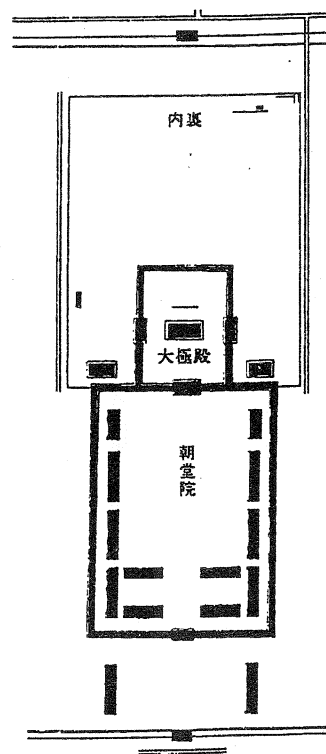
小埴田宮模式圖  
(603-655)



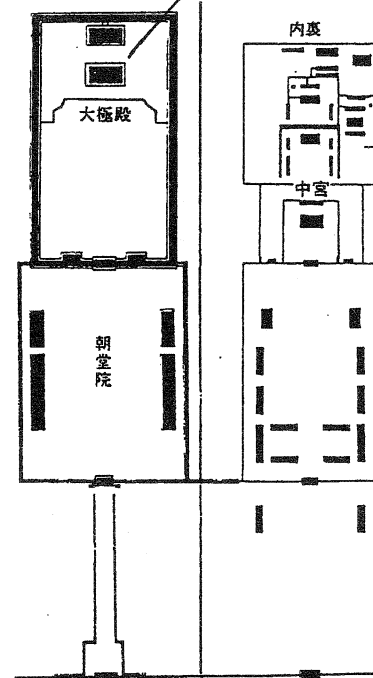
前期難波宮(長柄豊碕宮)  
(652-686)



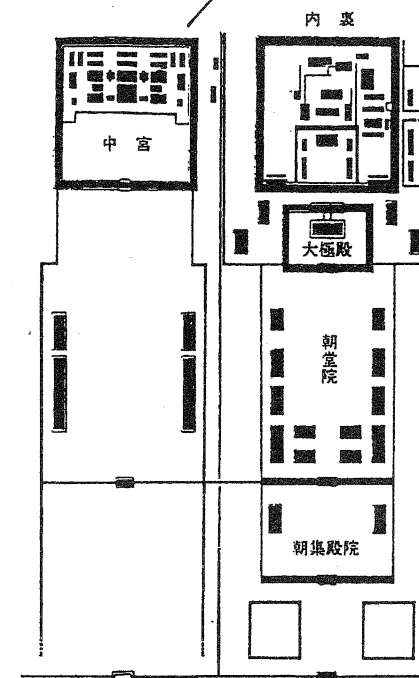
大津宮  
(667-672)



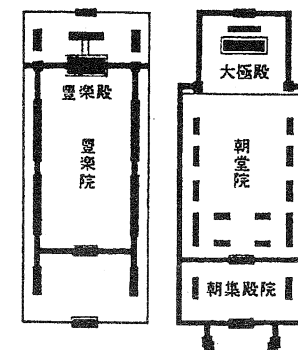
藤原宮  
(694-710)



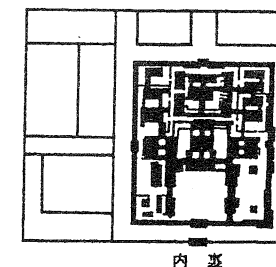
朱雀門  
平城宮 I  
(8世紀前半)



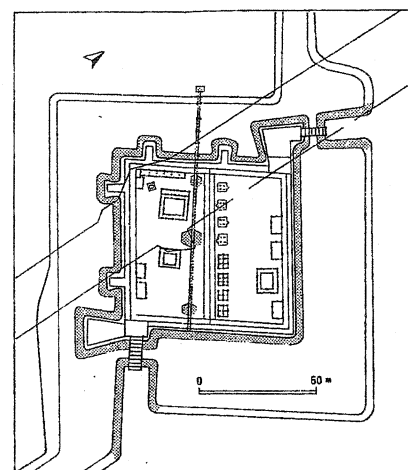
平城宮 II  
(8世紀後半)



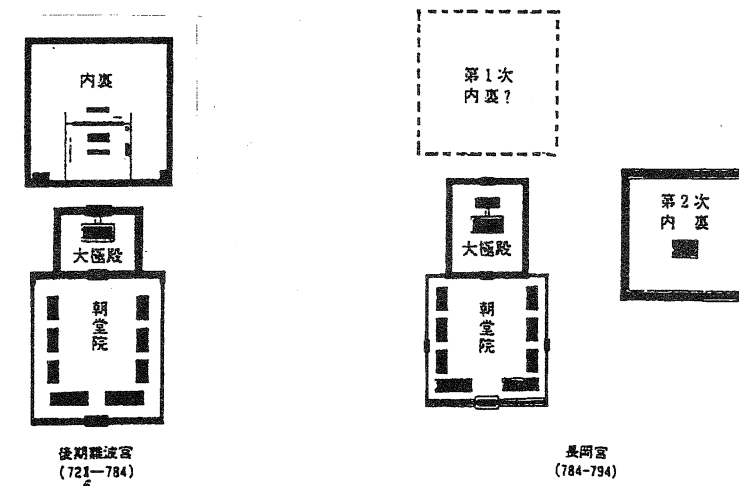
平安宮  
(794-?)



4 群馬県三ツ寺遺跡居館復元図



1 日本古代宮都の内裏・朝堂院の変遷

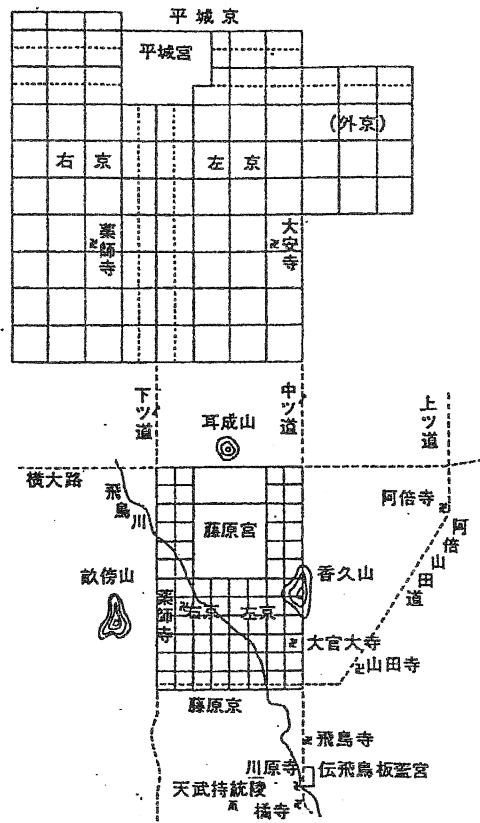


後期難波宮  
(721-784)

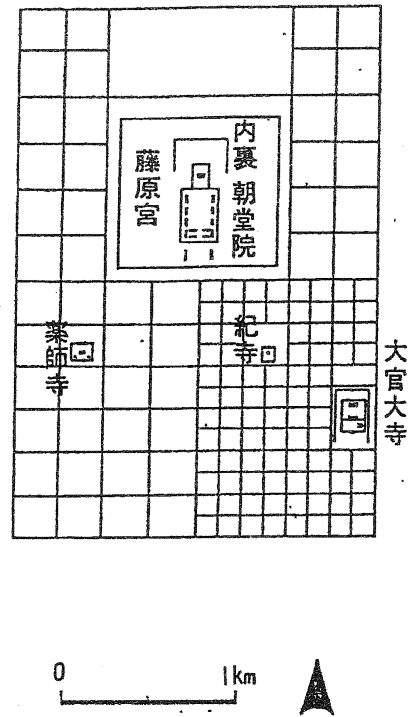
長岡宮  
(784-794)



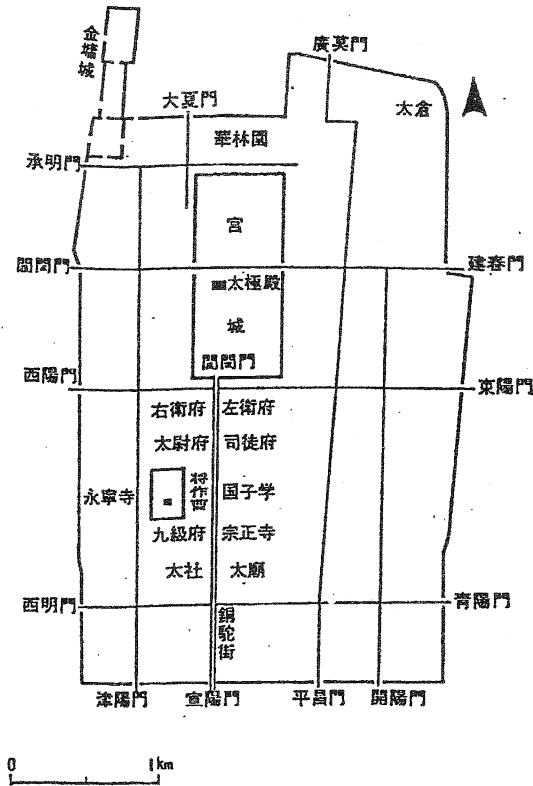
7 藤原京・平城京比較対照図 (岸俊男氏による)



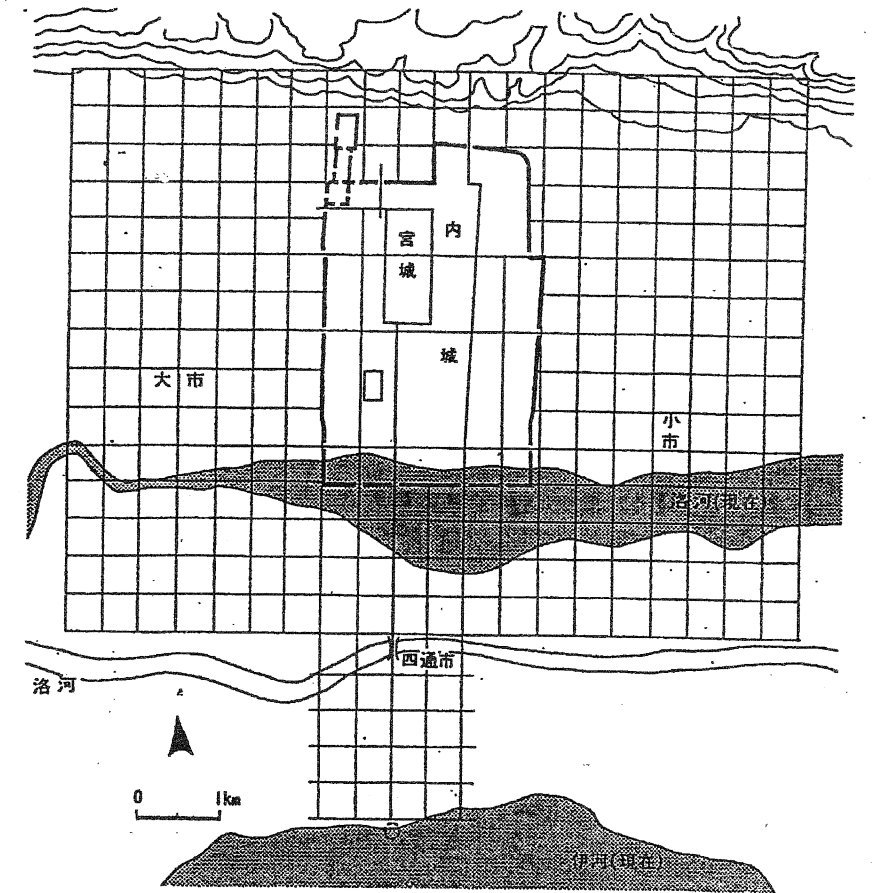
8 岸説藤原京復元平面図



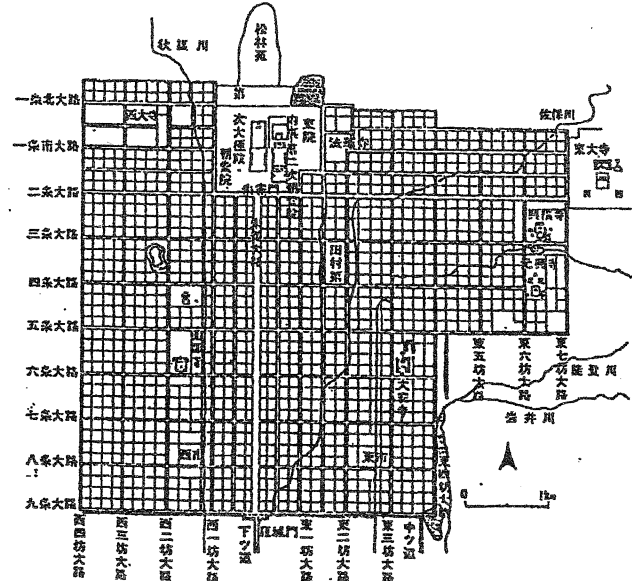
9 北魏洛陽城平面図



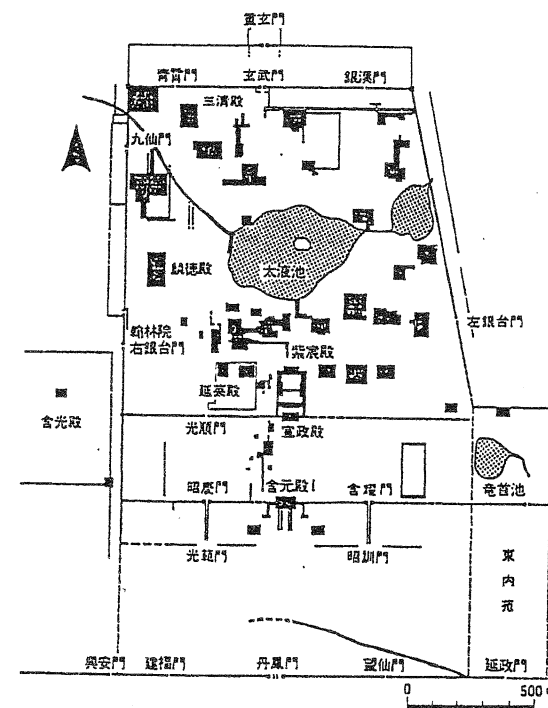
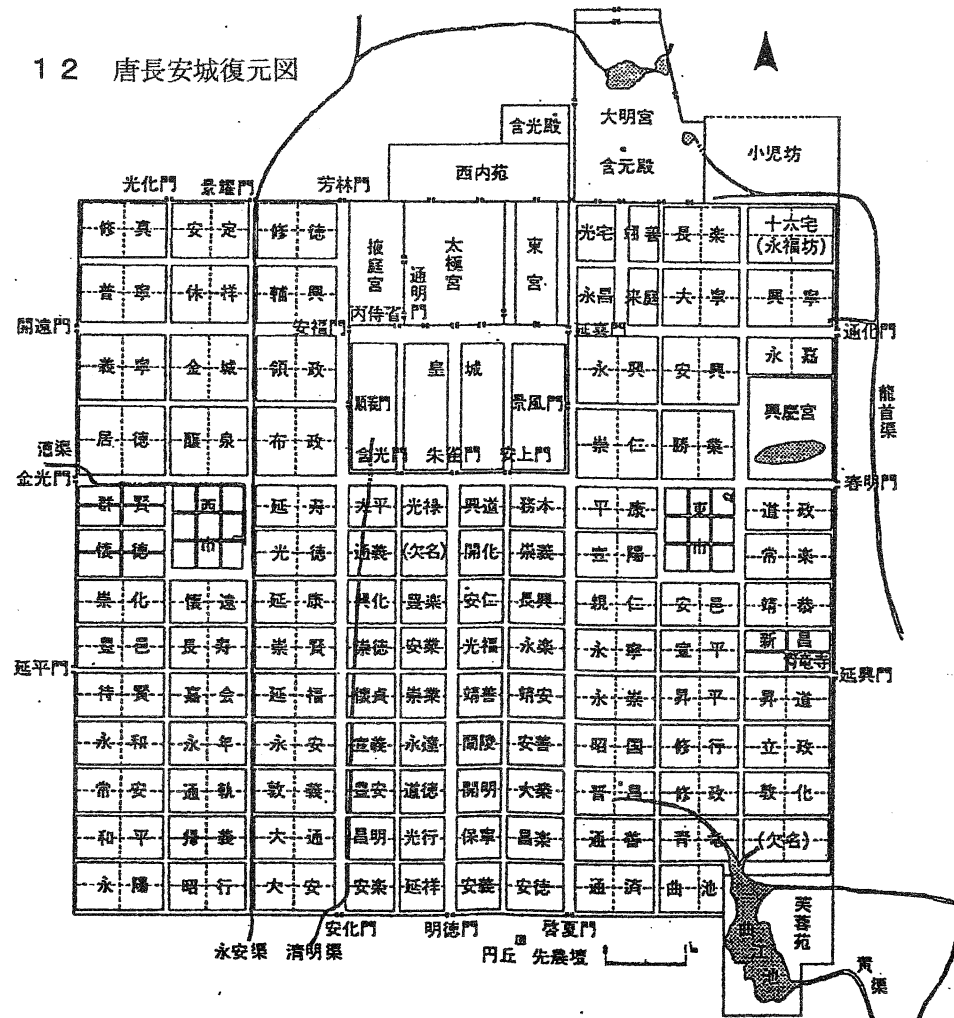
10 北魏洛陽城外郭平面図



11 平城京復元平面図



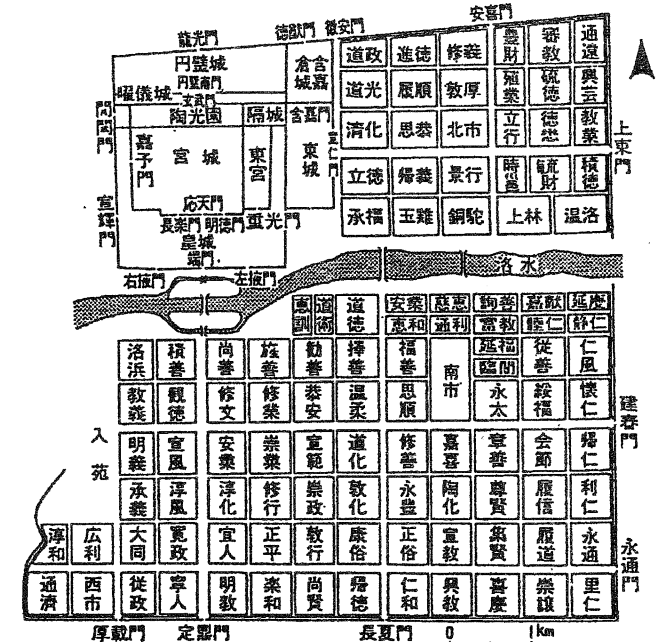
12 唐長安城復元図

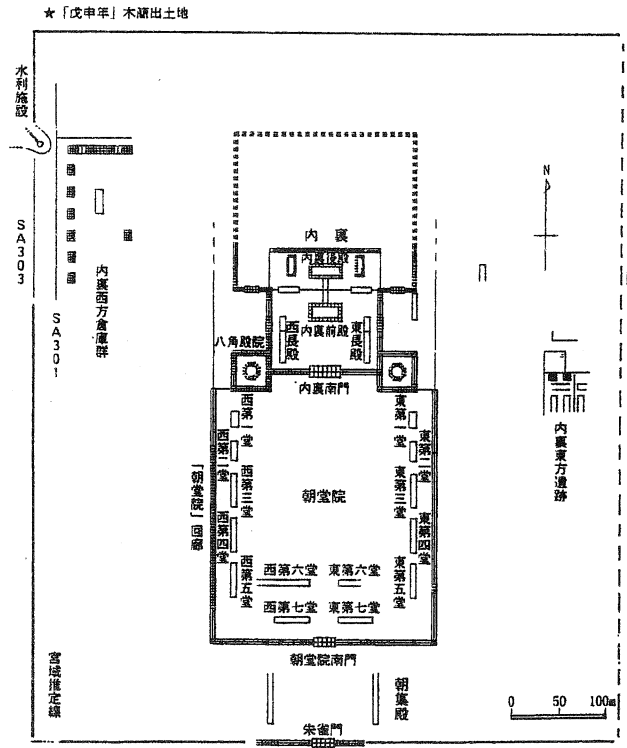


13 大明宮実測図

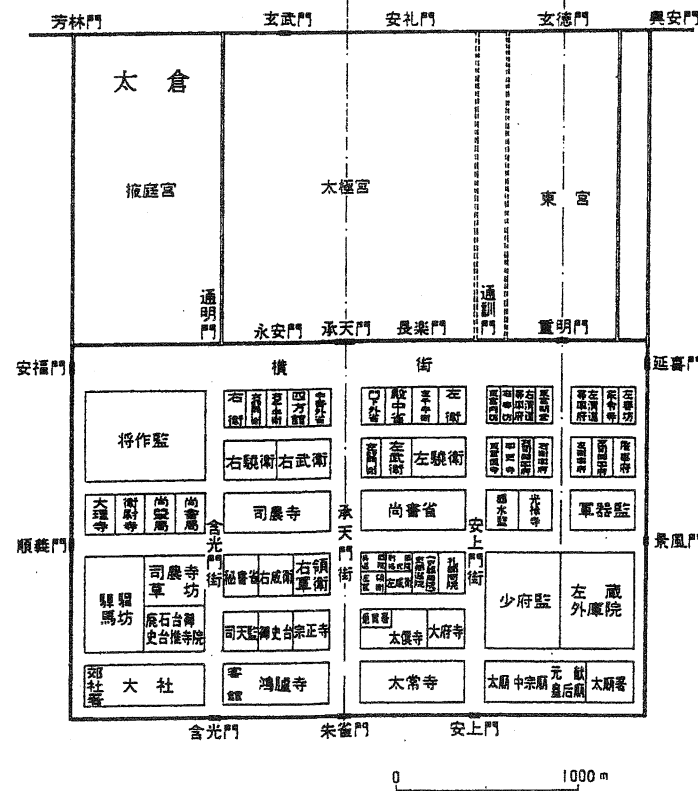
太極宮=西内 (せいだい)  
 大明宮=東内 (とうだい) 662年  
 興慶宮=南内 (なんだい) 728年

14 唐洛陽城復元図

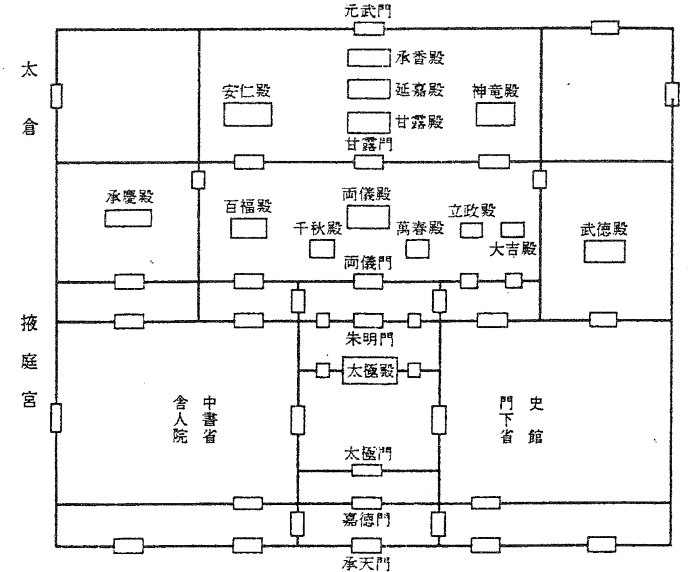




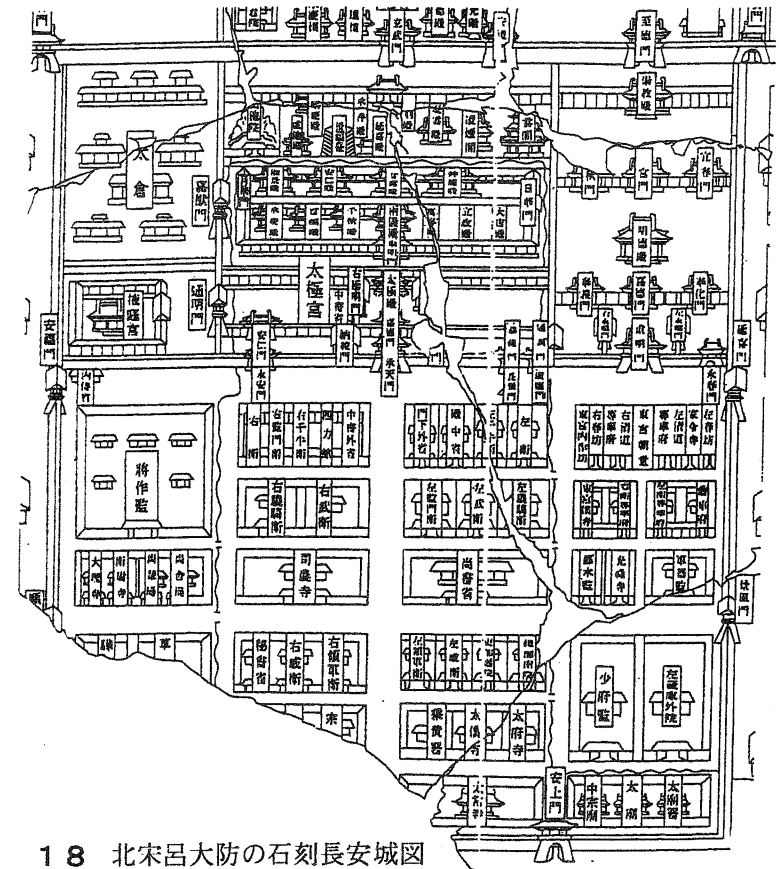
15 前期難波宮遺構配置図  
 (『難波宮址の研究』第11に加筆)



16 唐長安城皇城官署配置図



17 唐長安城の宮城要図

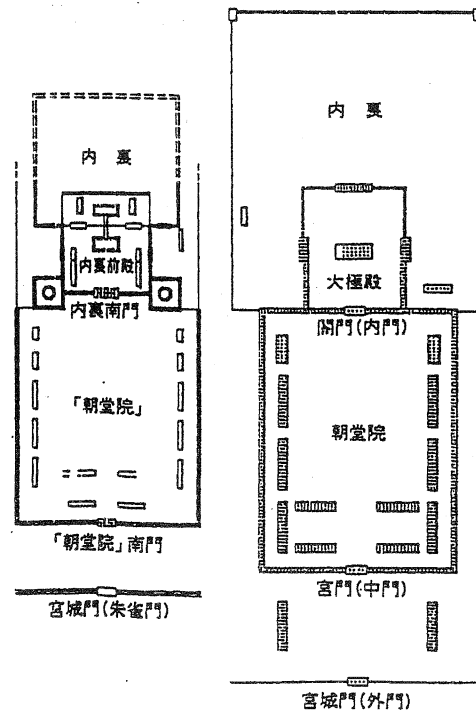


18 北宋呂大防の石刻長安城図

19 宮城諸門規模比較表

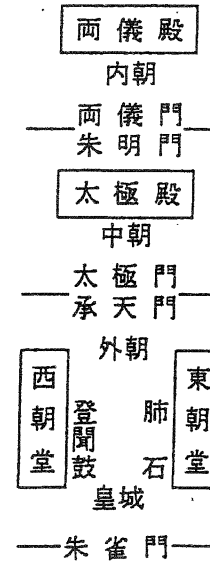
宮名	建物名	規模	寸法	平面積
前期難波宮	内裏前殿	○9×5	36.6×19.0	695.4
	内裏後殿	○9×5	34.3×14.6	500.8
	内裏南門	○7×2	32.7×12.3	402.2
	「朝堂院」南門	○5×2	23.4×8.8	205.9
	宮城南面中門(朱雀門)	○5×2	23.4×8.8	205.9
大津宮	内裏南門(SB001)	○7×2	21.2×6.3	133.6
	内郭南院南門(SB8010)	○5×2	14.8×5.4	79.9
伝承飛鳥板蓋宮	エビノコ郭西門(SB7402)	○5×2	14.8×5.4	78.3
	大極殿閣門	?		
藤原宮	朝堂院南門	5×2	(24.6×10.2)	(250.9)
	宮城南面中門	5×2	25.5×10.1	257.6
平城宮	第1次大極殿閣門	5×2	(23.8×11.8)	(280.8)
	第1次朝堂院南門	?		
	朱雀門	5×2	25.3×10.1	255.5
	第2次大極殿閣門	5×2	22.1×8.9	196.7
	同上 下層門(SB11210)	○5×2	19.2×8.9	170.9
	第2次朝堂院南門	5×2	19.5×7.2	140.0
	同上 下層門	○5×2	19.5×7.2	140.0
長岡宮	羅城門	(7×2)	(34.0×8.9)	(302.6)
長岡宮	大極殿閣門	5×2	(22.5×9.0)	(202.5)

注) ○印は掘立柱、( )内は復元値

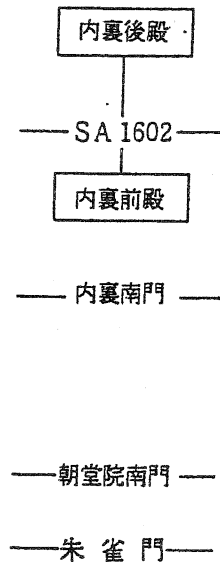


20 前期難波宮(左)、藤原宮(右)  
 内裏・朝堂院比較図

(2) 唐長安城



(3) 前期難波宮

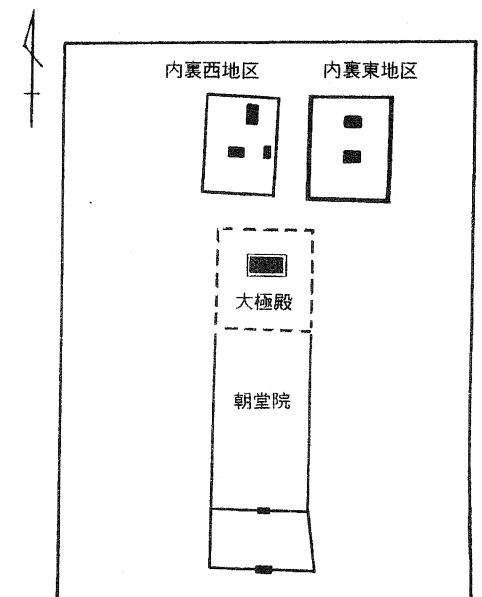


21 宮の構造比較対照図

(岸 俊男「難波宮の系譜」『日本古代宮都の研究』1988年所収より)

22 唐の三朝制 (『大唐六典』卷7工部郎中員外郎条)

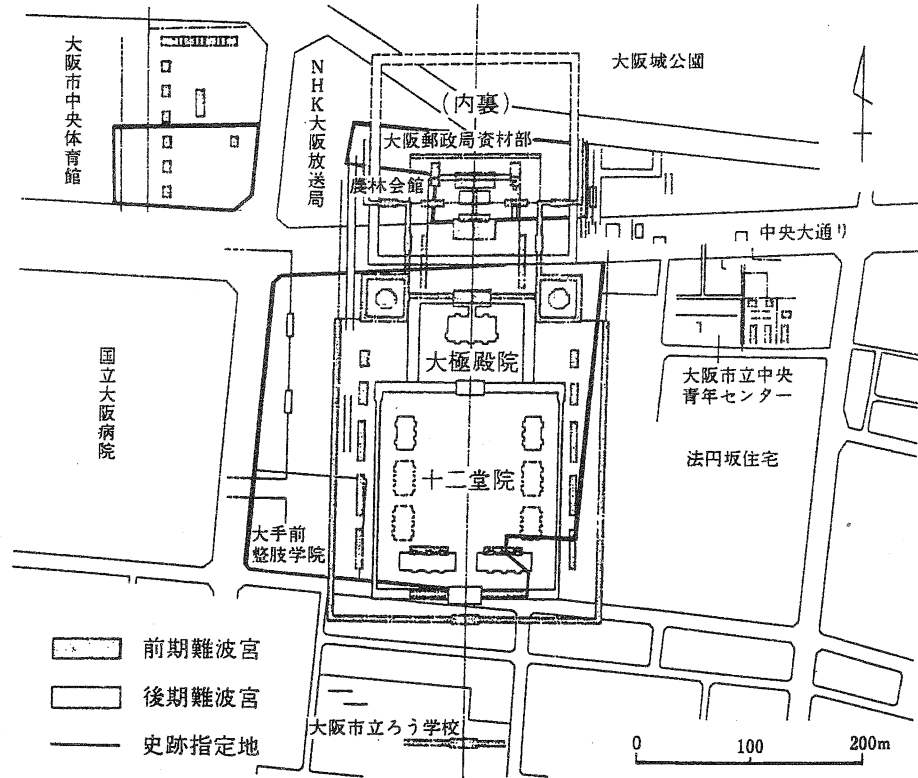
**承天門** 元日・冬至のような儀式、宴会、宥赦(大赦)、新政の施行、外国使節の応対などの時、天子は承天門に御して政を聴く(古の外朝)。  
**太極殿** 毎月朔望日(1日と15日)に出御して朝政を視る場(古の中朝)。  
**兩儀殿** 毎日朝政を聴き、政事を視る場(古の内朝)。



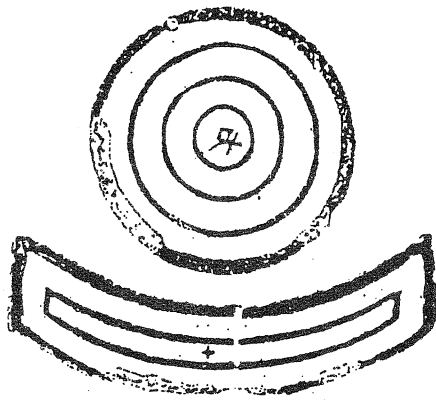
32 恭仁宮(740~744)復元図

0 200m

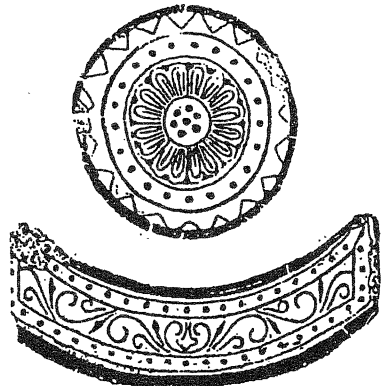
次	出	使	人	航	船	入	備
数	発			路	数	京	考
1	舒明2(六三〇)	大上田船	栗田	北路?	1	入京長安洛陽年月	
2	白雉4(六五三)	吉士長丹大使	吉士	北路?	1		往途、藤原氏船付
3	同7月?	高田根根臣大使	高田				近て遣唐
4	同5(六五四)	高向玄理(押使)	高向	北路	2		高向玄理、唐て没
5	天智4(六六五)	坂部石布(押使)	坂部	北路			第1船は往途南海
6	同6(六六七)	守大石・坂部石	守大石	北路			ら殺される
7	同8(六六九)	伊吉博徳	伊吉	北路			唐使徳高を送る
8	大宝2(七〇二)6月	藤原清河大使	藤原	南路			唐使法隆寺日
9	天智5(六七二)	吉備真備(副使)	吉備	南路			六三〇日行の暇に
10	天智5(六七二)	藤原武智麻呂大使	藤原	南路			送る。唐には往か
11	同18(七四〇)任命	石上麻呂大使	石上	南路?			
12	天平4(六五二)	藤原清河大使	藤原	南路			唐使法隆寺日
13	天平3(七五九)	高元度大使	高元度	渤海路			唐使法隆寺日
14	同5(七六一)任命	仲石伴大使	仲石				唐使法隆寺日
15	同6(七六一)任命	藤原原麻呂副使	藤原				唐使法隆寺日
16	宝龜8(七七七)6月	高麗山山副使	高麗				唐使法隆寺日
17	同10(七七九)	大伴益立(副使)	大伴				唐使法隆寺日
18	延暦22(八〇三)	藤原原麻呂副使	藤原				唐使法隆寺日
19	同23(八〇四)7月	石川道益(副使)	石川				唐使法隆寺日
20	寛平6(八九四)任命	菅原道真(大使)	菅原				唐使法隆寺日



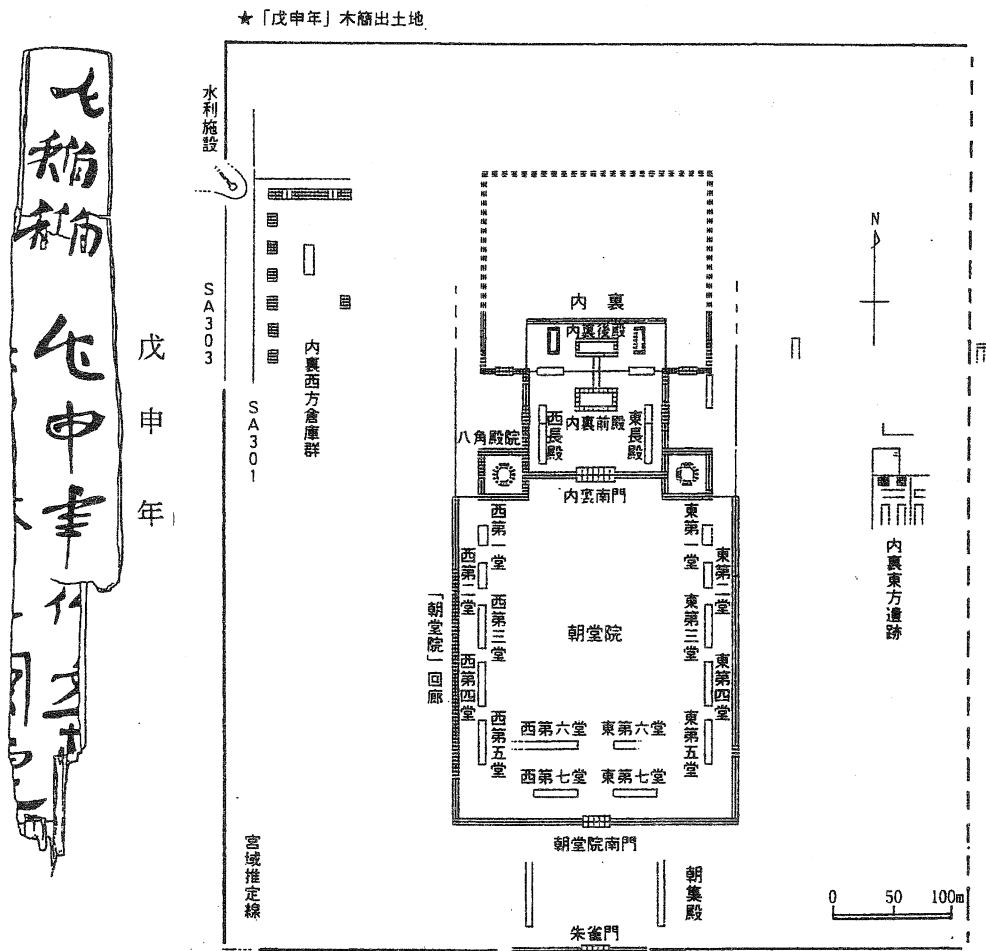
23 難波宮跡位置図



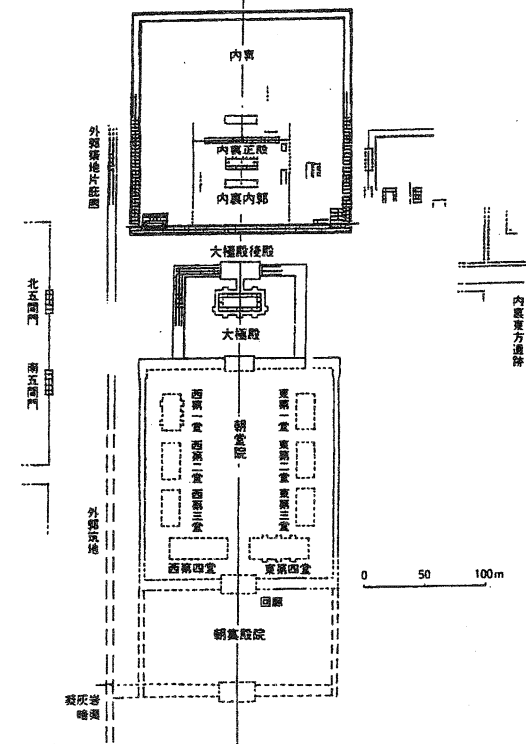
24 重圈・重廓文軒瓦



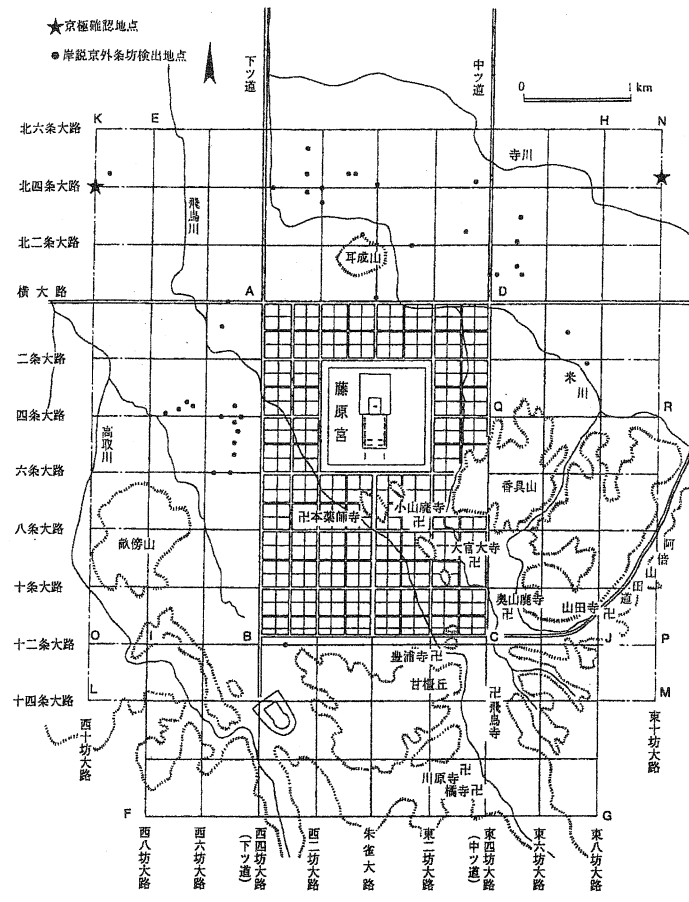
25 蓮華・唐草文軒瓦



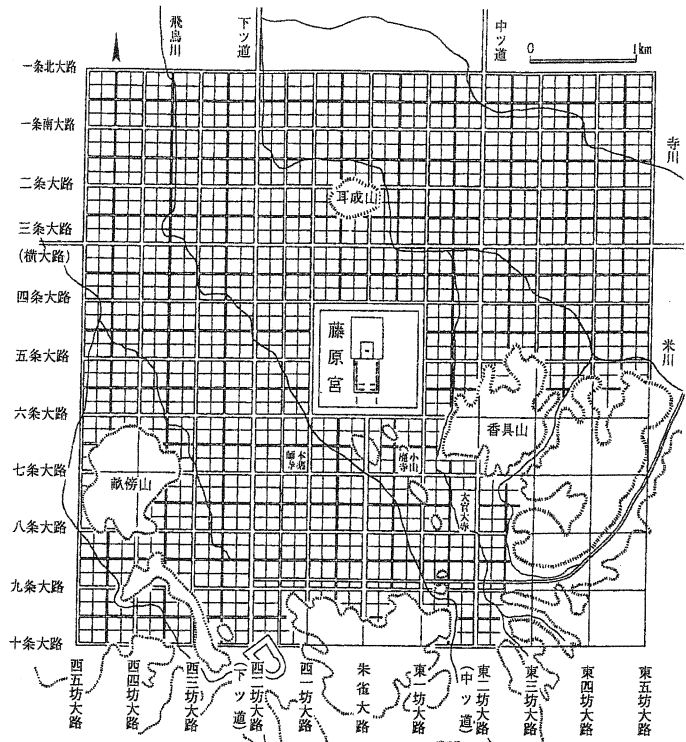
26 前期難波宮遺構配置図 (『難波宮址の研究』第11に加筆)



27 後期難波宮遺構配置図 (中尾芳治作図)



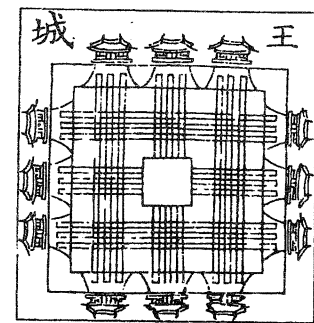
29 藤原京復元諸説  
藤原京の復元諸説 (条坊呼称は岸説およびその延長呼称による)  
ABCD=岸説男説, EFGH=阿部義平・押部能國説, EIJK=秋山日出雄説,  
KOPNまたはKOCQRN=竹田政敬説, KLMN=小沢毅・中村太一説



30 藤原京復元図 (小澤毅氏による) (川平城京に準ずる)

31 周代王都のプラン

匠人は國(王都)を営む。方九里。旁(各辺)三門。國の中は九經九緯(南北と東西に各九条の道路)。徑塗(南北の路)は九軌(九車線の道幅)。左(王宮の東側)に祖(祖廟)、右(西側)に社(社殿)。面(王宮の南面)に朝(朝廷)、後(王宮の北側)に市。市・朝は一夫(方百歩の面積)。(『周礼』冬官、考工記下)



中国の理想的な王城